

【座談会】

# 平和ってどんなこと？

——絵本『へいわって どんなこと？』作者・浜田桂子さんとともに



座談会の参加者

浜田桂子さん（絵本作家） 山中信吾さん（小学校教員）

古澤直子さん（小学校教員） 中村美知代さん（福祉型専攻科職員）

■平和は大事。それはもちろんわかっているけれども、では子どもたちや障害のある仲間たちにそれをどう伝えていけばいいでしょうか。本誌インタビュー誌面「いまを語りあう」に登場中の絵本作家の浜田桂子さんと一緒に考え合ってみました。

## 平和の色

——今日は浜田桂子さんをお迎えして、学校や福祉現場で日々障害のあるお子さんや青年の方たちと関わるみなさんと平和について考え合ってみたいと思います。はじめに、浜田さんの絵本『へいわって どんなこと？』（童心社）をみなさんどのように読まれたでしょうか。

古澤 「平和」というと、戦争をしないこと、暴力をしないことと強調されることが多いと思います。もちろんそれは大切なのですが、『へいわって どんなこと？』では、大好きな人がいつもそばにいたり、ことやごはんを食べられること、思いっきり遊べることなど、普段の日常のなかにあることが平和なんだと描かれていて、とても共感しました。

一方で絵本は「せんそうをしない。」というページから始まりますが、そのページが真っ暗な色合いだったことに衝撃を

受けました。子どもたちがこれを見た時、怖いと感じるだろうな。子どもたちのイメージを湧きやすくするために授業で絵本はよく使います。どうして話の始まりを真っ暗な色合いにしたのか、お聞きしてみたいなと思いました。

中村 たしかに。絵本の中にはいろんな子どもたちのいろんな姿が描かれていたので、「戦争」のインパクトをより強く感じながら読みました。

山中 絵本の最後の方に「へいわって ぼくが うまれて よかったって いうこと。」とありますが、子どもたちが感じている日々の幸せや子どもが本来もっているものを大事にしてあげたいなど改めて思いました。現場にいると、子どもは大人よりも劣っているから導いてあげなくちゃいけないという雰囲気を感じることもあります。子どもをひとりの人間として尊重し、その声を聴くこと、そんな平和への道をどうやって職場の

仲間と一緒につくっていくのか、なかなかむずかしいです。

浜田 絵本の「色」に着目してもらったのはすごくうれしいことです。『へいわって どんなこと？』は2011年に出版されて、それからいろいろなかところで講演をしてきました。その中で、大人の方からは一度も聞かれたことがないけれど、子どもたちからよく聞かれたのが「この本って、どうして黄色が多いの？」でした。それは私にとって絶対球の質問です。言葉ももちろん大事ですが、絵本って絵がものすごく語るんです。そして子どもたちは絵を読み込む力がすごくあります。

私は平和のシンボルカラーを黄色に決めていて、この絵本では表紙が黄色、見返しも黄色で、とびらも子どもが黄色の風船をふくらませているところ。目が黄色に慣れてきたところで始めの黒いページが来るんです。それはものすごくインパクトがあって、子どもには怖がら

せてごめんね、なんですけれども、「まず戦争しちゃだめだよね」という意図があります。3場面戦争の描写が続く、じゃあどうしてこういうことが起きてはいけないのかというと、「大好きな人にいつもそばにいてほしいから」とまた平和カラーの黄色が出てくるんです。

私の子どもが小さい頃は、平和絵本は空襲や戦争の被害を描いたものばかりでした。2人の子どもの下の子は読むのを拒否するし、上の子は「今で良かった。昔の人って大変だったんだね」と自分の生活とまったく結びついていないようでした。だから今この時を生きている子どもたちにとって「これが平和ってことかもしれないよ」という日常のありようを一つひとつくっきりさせていき、日々の喜びやうれしさを表していこうというところがこの本を作る根っこでもありました。

そして、私がこの絵本を通していちばん伝えたかったのは、

「あなたが生まれてきたことですばらしい」ということでした。子ども一人ひとりが、生まれてきてよかった、自分は待たれていた、自分の存在がまわりの幸せにつながっていると思えることが大事です。自分のことを大切に思える人は他者を思いやることができます。それが平和につながるっていくのではないのでしょうか。

## 子どもは大事 大人も大事

古澤 私は長く障害の重い子どもたちと関わってきました。障害の重い子どもたち一人ひとりにもその子らしさがあった、その子によって感じ方や好きなもの・苦手なものがあります。子どもたちにとって、自分の大事なものを自分らしさを大切に